

<H29-No21 : 地図編集 : 問題>

図 21 は、国土地理院刊行の電子地形図 25000 の一部 (縮尺を変更、一部を改変) である。次の文は、この図に表現されている内容について述べたものである。明らかに間違っているものはどれか。次の中から選べ。

ただし、図 21 の四隅に表示した数値は、経緯度を表す。なお、関数の値が必要な場合は、巻末の関数表を使用すること。

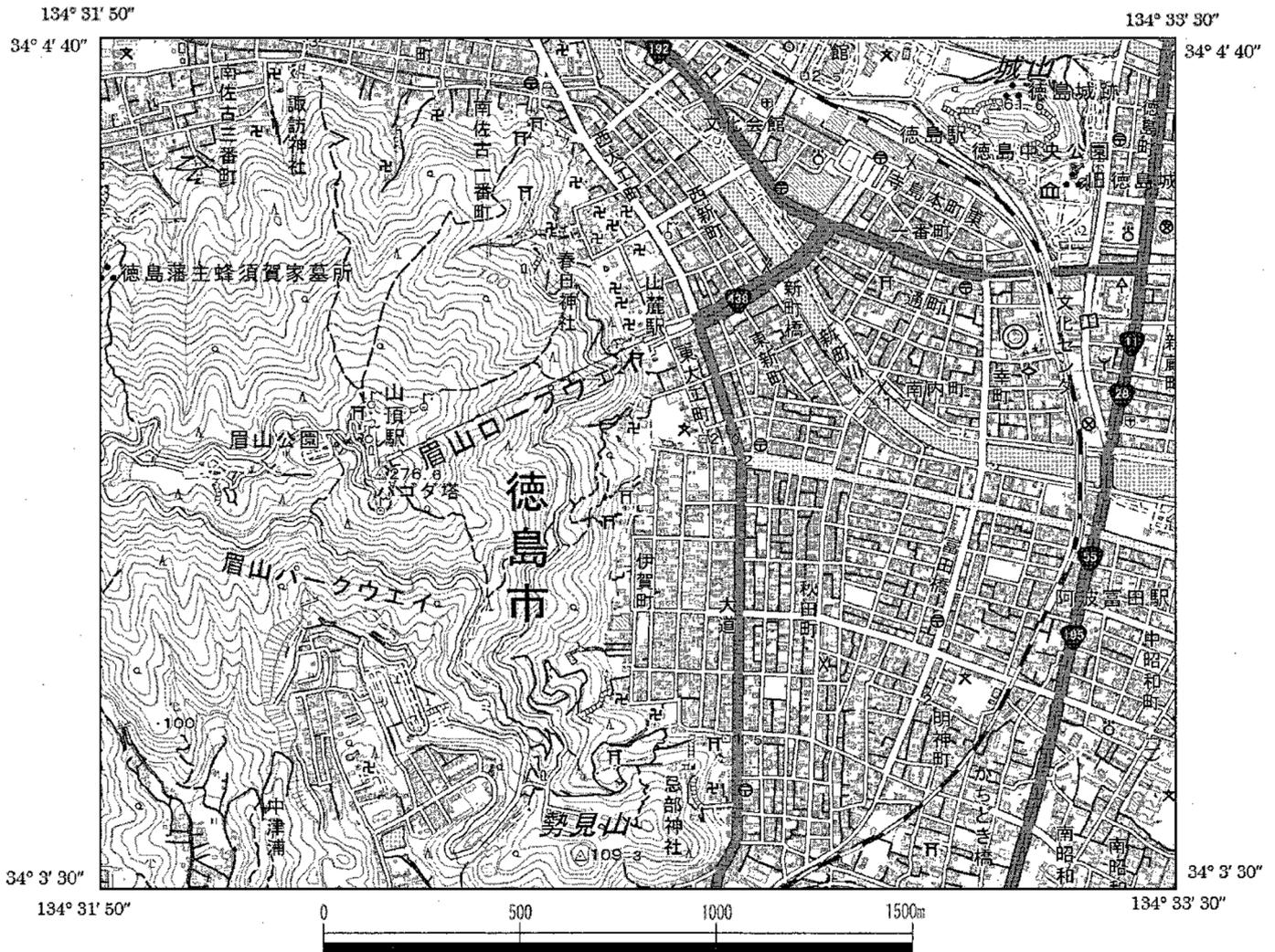


図 21

※印刷環境等により縮尺は異なります。

1. 眉山ロープウェイの平均傾斜角は、 30° より小さい。
2. 勢見山と城山との山頂の標高差は、およそ 48m である。
3. 市役所の経緯度は、およそ 東経 $134^\circ 33' 15''$ 、北緯 $34^\circ 4' 16''$ である。
4. 眉山公園の三角点と東大工町の水準点を結ぶ斜距離は、およそ 1,150m である。
5. 徳島駅と阿波富田駅間の鉄道は、単線 (単線区間) である。

<H29-No22 : 地図編集 : 問題>

次の a ～ d の文は、以下の A ～ D の地図の図法を説明したものである。明らかに間違っているものだけの組合せはどれか。次の中から選べ。

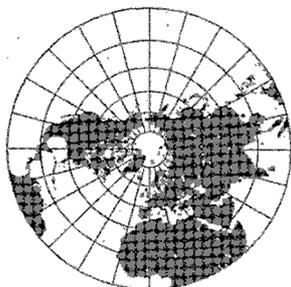
A



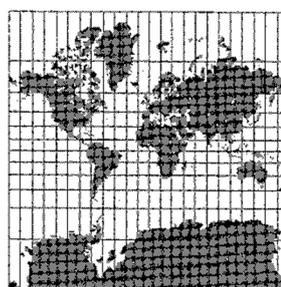
B



C



D



- a. Aは正軸円錐図法である。円錐を地球上に接し、又は地球に交わらせて投影したものである。緯線は1点から放射する直線になり、経線は同心円弧となる。
- b. Bは擬円筒図法の一つ、サンソン図法である。地球全体を、縦と横の比が1:2の紡錘形の中に収めた正角図法である。
- c. Cは方位図法である。地球に接する平面に地球表面を投影する方法である。原点から各地点への方位が正しく表されるが、地図の主点(中心)から離れるにつれて図形のひずみが大きくなる。
- d. Dは正軸接円筒図法である。地球上に円筒を接し、その上に経緯線を投影し、平面上に開いたと考える図法である。すべての経線及びすべての緯線が、それぞれ平行線群となる。

1. a, b
2. a, c
3. b, c
4. b, d
5. c, d

<H29-No23 : 地図編集 : 問題>

次の文は、数値地形モデル（以下「DTM」という。）の活用について述べたものである。明らかに間違っているものはどれか。次の中から選べ。

1. DTM を用いて、標高値の範囲ごとに彩色し、地形の陰影をつけた陰影段彩図を作成することができる。
2. DTM を用いて、数値空中写真を中心投影から正射投影に変換し、正射投影画像（オルソ画像）を作成することができる。
3. DTM 基盤地図情報（建築物の外周線）を用いて、三次元建物データを作成することができる。
4. 格子間隔の大きいDTMよりも、格子間隔の小さいDTMを用いた方がより詳細な地形の断面図を作成することができる。
5. 公共測量において、航空レーザ測量により作成した5mメッシュのDTMを用いて、地図情報レベル5000の等高線（主曲線間隔5m）を作成することができる。

<H29-No24 : 地図編集 : 問題>

地理空間情報活用推進基本法（平成 19 年法律第 63 号）第 2 条第 3 項に定められた基盤地図情報は、電子地図上における地理空間情報の位置を定めるための基準となる情報であり、地理情報標準プロファイル（JPGIS）に準拠して作成されている。次のページの図 24 は、国土地理院が提供している基盤地図情報の応用スキーマの一部であり、次の文は、図 24 及びこれに基づいて作成されたデータについて述べたものである。明らかに間違っているものはどれか。次の中から選べ。

1. 基盤地図情報地物の項目やその属性情報が UML クラス図を用いて記述されている。
2. 基盤地図情報地物として、2 個の点型地物、2 個の線型地物、2 個の面型地物が定義されている。
3. 測量の基準点のデータは、属性情報として点名称を持っている。
4. 行政区画界線のデータは、属性情報として文字列で入力されている名称を持っている。
5. 建築物のデータを利用する際に、その建物が普通建物であるか区別することができる。

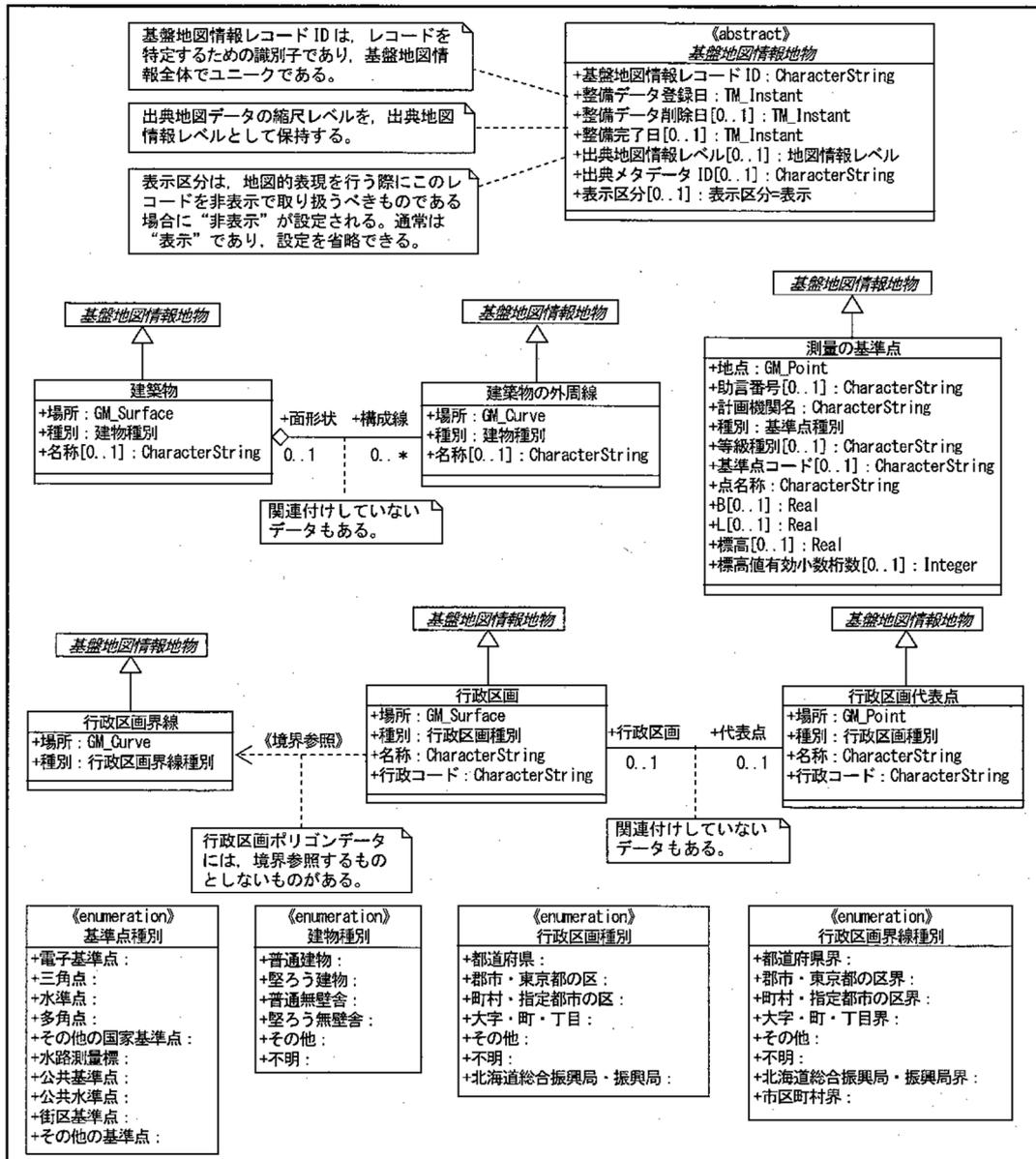


図 24